

マリーゴールド種配り 『オレンジガーデニングプロジェクト』

Aコープ紀南VASEO店で6月23日、認知症啓発「オレンジガーデニングプロジェクト」の一環としてマリーゴールドの種配りが行われました。今回は役場職員に加え、くしもと町立病院、新宮警察署職員などが参加し、プロジェクトの思いを説明しながら、計250袋の種袋を配布しました。

種を手にとられた方は、「花が好きなので種をもらえて嬉しい。これを機会に知り合いにも取り組みを伝えたい」と喜んでいました。



オレンジガーデニング プロジェクトとは？

「認知症になっても暮らしやすいまちを皆で創っていきこう！」という思いを共有し、認知症啓発のシンボルカラーであるオレンジ色の花を楽しみながら育てて、町内各地で咲かせようというプロジェクトです。



くしもと町立病院で『認知症予防教室』

6月29日にくしもと町立病院で開催された「第2弾 認知症予防教室」。今回は、「オレンジガーデニングプロジェクト」とも併せてマリーゴールドの苗植えを実施し、田嶋町長も参加。和気あいあいとした雰囲気の中、参加者は、ガーデニングや軽快な音楽にあわせたダンスを楽しんでいました。

認知症認定看護師の寺島真由美看護師長は「認知症予防は『身体を動かして皆と交流する』ことが大切。定期的なこうした交流の機会を作るので、ぜひご参加を」と継続的な参加を呼びかけました。



米スペースキャンプへ出発！

7月1日～7日にアメリカ合衆国の「米国宇宙ロケットセンター」で開催されるスペースキャンプに、米ノースロップグラマン社から招待を受けて町内中学生4名と教員らが参加することとなり、6月20日、町長室で壮行式が行われました。

参加者は、串本西中学校の河原福太さん（3年）と清野潤平さん（2年）、串本中学校の潮崎大佑さん（3年）と杉本爽真さん（3年）。キャンプでは航空・宇宙産業、宇宙船、クルーの役割などを学ぶ予定で、世界から参加者が集うなか、今回、日本からは串本町のみが参加します。

“ロケット最先端の町ならではの招待”を受けた今回のキャンプ。壮行会で田嶋町長は「多くの経験・体験をして、帰ってきたら友達や町長へ報告してほしい」と声援を送り、生徒を代表して河原くんは「本当に楽しみでわくわくしている反面、緊張や不安も大きい。全力で学び楽しんで『最高の体験だった』と言えるようにしたい。ロケットの勉強はもちろん、他国からの同年代の参加者と積極的に会話し、交流を深めて視野を広げたい」と意気込みを語りました。



串本古座高校 元 JAXA 職員 藤島徹先生による 『宇宙出前講座』～潮岬・上野山こども園～

潮岬こども園（7月4日）と上野山こども園（7月5日）で、串本古座高校の「宇宙探究コース」専門教員の藤島徹先生が『宇宙出前講座』を開き、年長児らが参加しました。

宇宙やロケットへ関心をもってもらおうと企画された今回の講座では、同校の生徒も参加して園児たちとカメラのフィルムケースを使ったミニロケットを制作。入れ歯洗浄剤と水だけで飛び上がるミニロケットや、空気圧で40～50mも飛びペットボトルロケットにこどもたちは大喜びでした。

園児は「ロケットが飛んで良かった、思ったより飛んだ！」と笑顔で話していました。



『缶サット甲子園』～潮岬望楼の芝にて～

7月15日・16日、町内で「缶サット甲子園2023和歌山地方大会」が開催され、県内や近畿内から計10校が参加しました。

本大会は、高校生が自作したモデルロケットで缶サット（空き缶サイズの模擬人工衛星）を打ち上げ、技術力や想像力を競うもので、15日は旧古座分庁舎の8K臨場感シアターで事前プレゼン・機体審査、16日は潮岬望楼の芝で缶サットの打ち上げなどを実施。会場では、生徒たちの力作の打ち上げに熱い視線が注がれました。



『子育て講演会』～子どもたちの命を守るために私たちにできること～

全国で子育て等に関する講演会を行っている島田妙子氏を講師に招き、7月8日、串本町役場多目的ホールにて「令和5年度子育て講演会」を開催しました。

島田氏は、幼い頃に受けた壮絶な虐待の経験を語り、怒りの扱い方や自己肯定感を高める方法等について講演。「怒りのホルモンはアドレナリンで、その効果は長くても6秒。アドレナリンが消えてから怒るべきか考えて」と、感情と上手に付き合う方法などについて語りました。

